

和田の自然の良さを 肩ひびらぎに発信

和田浦歩23会



会長 庄司忠夫さん

和田と言えば「花嫁街道」「黒滝」「抱湖園」。その誕生から現在まで深く関わってきた「和田浦歩23会」。特に、花嫁街道の維持管理、外部への発信、問い合わせへの対応。その多くを引き受け、活動しているのがこの会です。

また、抱湖園についても、南房総市観光協会和田支部と共に、間宮七郎平の意志や遺徳を引き継ぐべく、保全や活用に尽力しています。

その代表が、右の写真の庄司忠夫さんです。お年を聞くと、何と83才。現在でも、暇や必要があれば、20キロ以上の荷物を担いで、花嫁街道の最深部にまで分け入り、そこでチェーン等を使っています。それを聞いて二度ビックリ。信じられない苦さと体力です。

庄司さんを長とする「和田浦歩23会」が花嫁街道に関わり始めたのは昭和60年のこと。自らも参加し活動していた、「山歩(やまのり)の会」からそれを引き継いだ、というのが始まりとのこと。

それから既に20年以上。男性会員を中心に、手弁当でコースの維持管理に努めてきました。整備の基本は、「自然に少し手を加えるだけ」「山にある材料以外は使わないこと」を心がけています。

また、「その山を良く知っている者がコース設定や整備をしなければ、利用者の欲求に応える血肉通ったものとはならない」と言います。

なぜならば、粗上の計算では、「現場の状況に合った階段などの高さや幅」が割り出せるものではないからだと説明。そして、「コンクリートなどの人工物では、安全性や優しさに欠けることになり、利用者への不評を買ってしまうのだ」とも述べています。



花嫁街道には花婿コースも



黒滝の滝壺付近の様子

現在、花嫁街道・黒滝・抱湖園を訪れる人は、年間数万人にのぼるといわれています。しかし、和田町が南房総市となり行財政改革が進む中、「和田地区だけの観光資源の保護育成支援を手厚く」というわけにはいきません。「均等にたまね」といのが、行政が行う事業の原則です。

従って、これら和田の観光資源の管理保全などの活動も、「和田浦歩23会」のような民間団体の尽力なくして成り立つてはいきません。

一方、「和田浦歩23会」も厳しい現実と向き合っています。前で書いたように花嫁街道に関わって20年以上。庄司さんを筆頭に、メンバーにも高齢化が進んでいます。重機の入らない山岳コース、整備は人力に頼るしかありません。

しかし、和田地区の観光資源保全の良好とは言えない状況、整備の労働力不足を十分に踏まえながらも、庄司会長は言います。

「解りせよ」といへば力んで説明しても、人はなかなか共感してくれないものだ。しかし、やうたことを見てもらうことで、その良さや大切さを一瞬のうちに理解してもらえることがある」

その口調には、むしろゆとりさえ感じられます。花火のように華々しく咲いても、あつという間に無くなってしまうのでは、何の意味もない。良いものは必ず誰かが受け継いでくれるはず。そこに20年の重みが、伝わってきます。



既に咲き始めた元朝桜(2月初旬)

発行者 南房総市・和田地域づくり協議会「WAO!」
連絡先 南房総市役所和田支所内 地域づくり支援員
電話 支援員 0470-47-5955
支所 0470-47-3111
E-mail qq4u9y89n@royal.ocn.ne.jp

2月上旬の抱湖園の様子

災害時こそ、コミュニティの 自治能力が必要になります

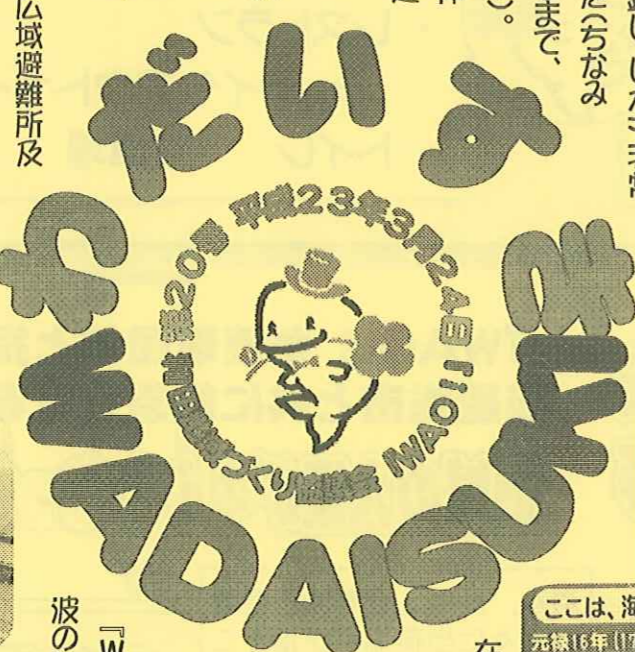


南三原小学校から避難場所に変更された和田保育所

3月11日(金)午後2時46分頃、東北地方太平洋沖で巨大地震が起きました。その地震で東北を中心に、震度7・震度6というすさまじい揺れに見舞われました。和田地域でも震度5弱を記録し、しかも非常に長い間その揺れを感じました(ちなみに、震源域では破壊が収束するまで、6分間もかかったとのこと)です。

発生直後に、ほぼ太平洋沿岸全域に大津波警報が出され、避難指示がなされました。

そして、東北地方沿岸では、発生した津波により、万にも及ぶ人の命と建物が失われました。三陸海岸では、津波の高さが15Mに及び、海拔20M付近の



『WAO!』の安心・安全部会でも、地震・津波の際の実効的な避難訓練、高齢のご家族や独居の方の安全確認の必要性が、以前から話題にのぼっていました。

各地区避難所及び地区の避難所に、多くの人が集まりました。上の表は、各施設が一番多かった時の人数です。各施設に避難した人達の数が多かったのはやはり11日の午後5時から10時まででした。

施設名	人数
和田小学校	43
和田コミセン	30
南三原小 → 和田保育所	76
和田区社務所	15
峯金井集会所	11
白渚西お堂	10
白渚熊野神社	2
真浦区社務所 威徳院	100
小浦区集会所	6



入り込んだ真浦地区の地形



津波が到達したと記された石碑

ここは、海拔約13.8m
元禄15年(1703年)の大津波は海面から約16.4mの高さが記録されています。

特に真浦区は、元禄地震で大きな津波被害があったことから、避難指示の後、区の役員呼びかけで、地区の人達が、社務所や威徳院に避難しました。午後十時には、避難した人達も自宅に帰ることが出来ましたが、避難の間、集まった人達に区からお茶が提供されました。また、和田保育所には、12日にも避難された人達が残っていました。南三原地区の日赤ボランティアの方々が、おにぎりの炊き出しをして下さいました。

一方、和田支所には、電話で、高齢のご夫婦や独居の方の安全確認の要請が多くなりました。しかし、現在の支所の人数では、それらの要望にお答えし切れる状況ではありません。そこでやはり、右で紹介したような各行政区の自治力や相互支援能力、ボランティアによるきめ細かな活動が必要。いわば「近所(地域)力」が、こういう時に力を発揮する訳です。



地区の避難場所で1番多くの人が集まった真浦の社務所と威徳院

地域づくりの中核施設に『WAO!』は、次のように関わっていきこうと考えます

現在の『WAO!』

「WAO!」には、和田地域に関わりのある人々が任意に参加しています

総会
理事会

「WAO!」は、市からの交付金を基に、公益的な活動をしています

安心・安全部会

- * 小学生、PTA、学校関係者と連携し通学路周辺の安心・安全マップを作成し、地域へ発信する。
- * 消防と連携し、過疎化、高齢化社会における消防や救急のあり方に関する講習会や座談会等を開催する。
- * 他団体や店舗等と連携し、高齢者の安否確認や生活補助システム等の研究を行う。
- * 小学生等の見守り活動を行う。

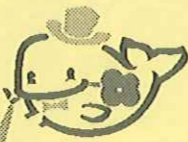
生きがい部会

- * 和田地区で開催されるボランティア活動、市民活動等への協力や支援を行う。
 - ・地域づくり活動の調査発信
 - ・和田地区文化祭への協力や支援
- * 寺子屋講座の開催
 - ・地域課題をテーマとしたもの
 - ・スポーツ、レクリエーションをテーマとしたもの

にぎわい部会

- * 地域素材を生かした料理の開発研究を行い、商品化した。
- * 地域の魅力を外部に発信するため、友好都市との交流に関する調査研究をしたり交流実践をした。
- * 関係団体等と連携して、地域の賑わいを目指すイベントの企画や実践をする。
- * ピーチクン活動に参加する。(サーフィン・プロジェクト)

近くには、「こんなことが予定されています」



「地域づくり中核施設」指定管理団体への意思表示
NPO法人地域づくり協議会『WAO!』設立総会の開催

23年5月
～
23年4月

法人の定款づくり

法人の組織づくり

『WAO!』の業務内容は、主に施設の建物の維持管理です

地域づくり中核施設

24年4月頃

情報発信棟

地域の人が集い楽しめる
居場所づくり

- ・和田支所 ・コミセン
- ・ギャラリー
(観光案内所併設)
- ・生きがいスペース
(調理施設、くつろぎスペース)

イベント広場



にぎわい棟

- ・直売所(野菜など)
- ・加工品等の販売所
- ・レストラン
+ テイクアウトサービス
- ・トイレ ・駐車場

道の駅的施設

予想される NPO法人『WAO!』の活動等

1. 現在行っている公益的活動の継続
 - * 「学び合い活動し合えるめぐもりの町」づくりに係る、生きがい創出のための各種講座等の開催に関する事業
 - * 「手を取り合い誰もひとりぼっちにしない町」づくりに係る、安心・安全な地域づくり推進のための事業
 - * 「お年寄りから子供までが集いともに生きる町」づくりに係る、にぎわい創出のための事業
2. 中核施設の建物の管理業務
 - * 敷地内の管理点検、保全等を含む
3. ギャラリーを使った展示会等、イベントの主催
4. 生きがいスペースの調理施設等を使った体験やボランティア活動の主催
5. 和田地区等の各種団体等との連携した公益的活動

『WAO!』が管理団体と指定されてから、南房総市と共に経営会社等を募ります
地域の人達が中心となった会社等が経営

現在、約160軒の生産者の方々に出荷協力を頂くことになっています

にぎわい施設の経営

1. 直売所
 - * 産品納入組織の確立と管理
 - * 販売と品質管理
 - * 売り上げの管理と納入者への売り上げ分配
 - * 産品引き取り等のきまり作り
2. 加工品等の販売所
 - * 納入業者等の選定と管理
 - * 販売と商品管理
 - * (オリジナル)商品開発 等
3. レストラン
 - * 営業とメニュー開発
4. イベント等の開催
 - * 販売拡大等を目指した工夫

収益活動と『WAO!』の行っている公益活動を連携させながら、地域の活性化を目指します